

令和 6 年 6 月 16 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2021～2023

課題番号：21K00869

研究課題名(和文) 中近世地域社会の宝物をめぐる文化史

研究課題名(英文) Cultural History of Treasures in Medieval Japanese Society

研究代表者

黒田 智 (Kuroda, Satoshi)

早稲田大学・社会科学総合学院・教授

研究者番号：70468875

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、前近代日本における地方寺社の宝物と宝物がまとう物語に関する文化史研究で、歴史・文学・美術研究の交差点に立ち、地域史と環境史に重点をおく。(1) 富山市勝軍地蔵像の調査を実施して、『たたかう神仏の図像学』にまとめた。(2) 中世吉崎御坊跡にたつあわら市願慶寺の文化財調査を進めた。(3) あわら市熊坂大仏と松籠寺千体仏の調査と研究を行なった。これらをもとめて(4) 中近世加越能地域の水災の表象と記憶に関する論考を公表し、『水の表象、水災の記憶(仮)』を刊行予定である。そのほか、(5) 加越能地域の史料の翻刻・紹介し、(6) 金沢市真宗寺院調査にも参画した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

加越能地域に残る絵画や彫刻といった視覚史料、縁起や由緒書、奇談といった文学史料を徹底的に分析・読解することで、日本史学、日本文学、日本美術史学研究の交差点に立ち、新しい史料論と地域史研究を進めた。合わせて当該地域に残る史料群の特質から環境文化史、とりわけ中近世日本における水災の記憶と表象をめぐる歴史の変容の問題に着目して、想像力史研究の重要性を提起している。

研究成果の概要(英文)：This study is a cultural-historical research on treasures and the stories that treasures cloak local temples and shrines in pre-modern Japan, standing at the intersection of history, literature, and art studies, with an emphasis on local and environmental history. (1) Conducted research on the statue of Shogun-Jizo in Toyama City and compiled it into the book "Tatakau Shinbutsu no Iconology". (2) Conducted a survey of cultural properties at Gankeiji Temple in Awara City, which stands on the site of the medieval Yoshizaki Gobo. (3) Conducted research and surveys of the Great Buddha of Kumasaka in Awara City and the Thousand Buddha Figures of Shoryuji Temple. (4) These will be compiled and published in a book titled "Representations of Water, Memories of Water Disasters". In addition, he (5) reprinted and introduced historical documents from the Kaetsunoh area, and (6) participated in a survey of Shinshu temples in Kanazawa City.

研究分野：中近世日本文化史

キーワード：歴史図像学 地域史 宝物論

1. 研究開始当初の背景

申請者は、基盤研究(C)「中近世加越能地域の村落と宝物」(2017~2019年度)において、加越能地域における文化財調査をもとに、黒田智・吉岡由哲編『草の根歴史学をどう作るか』(文学通信 2020年)などにまとめた。本研究はこれまでの地域史研究を継承し、前近代日本における地方寺社の宝物と宝物がまとう物語=寺社縁起に関する文化史に照準を定める。地方寺社に伝存してきた宝物と縁起、由緒書、宝物目録等の分析・読解により、それらを創り出し、享受してきた中近世の地域秩序とその変容をとらえたい。それはまた、天皇や公家・武家といった前近代の中央権力の中枢に伝来してきたハイカルチャーの系譜と民衆文化に流れる伏流水のごときローカルチャーの系譜との関係を明らかにすることでもある。歴史、文学、美術研究の交差点に立ち、地域史と環境史に重点をおいた新しい文化史研究を進める。

2. 研究の目的

地方寺社の宝物はどのように享受されてきたのか。宝物を享受する共同体・地域秩序は、どのような歴史的変容をきたしてきたのか。

本研究は、第1に、絵画史料論の深化の試みであり、より巨視的で豊かな視覚史料論の可能性を切りひらく挑戦でもある。第2に、絵画や彫刻といった視覚史料とともに、縁起や由緒書、奇談といった文学史料を徹底的に分析・読解することで、日本史学、日本文学、日本美術史学研究の交差点に立ち、より広い視野にたった多角的な学際研究を構想し、新しい文化史研究の端緒とする。第3に、地域に残る史料群の特質から環境史、とりわけ水災の記憶と表象をめぐる歴史的変容に重点をおいて研究を進める。第4に、宝物をめぐる図像と言説の考察によって、地域史の再構築をはかる。地域史研究に必然的に生じる中世史料の制約を克服するために、近世史料の史料批判をくり返しながら中世以前の痕跡を読みとり、地域秩序を明らかにする。

3. 研究の方法

本研究では、加越能地域をフィールドに、以下の4つの作業を中心に研究を進めた。すなわち、絵画・彫刻・経典等の寺社所蔵史料の調査、関係史料の収集と分析・読解および先行研究の把握、研究論文の執筆である。

について、調査作品の熟覧・デジタル写真撮影を実施する。特に像背銘文や像内銘文では、赤外線や内視鏡による撮影等を工夫する。撮影および画像処理や判読、資料整理をすすめる。

について、金沢市立玉川図書館加越能文庫、石川県立図書館、富山県立文書館をはじめ地域史料を所蔵する図書館のほか、東京大学史料編纂所、国立国会図書館、早稲田大学図書館、国文学研究資料館等での史料収集を行なう。個別の調査成果の公表のみならず、中近世日本における水の表象と水災の記憶をめぐる論考をまとめて、研究論文集の刊行をめざす。

4. 研究成果

[1] 富山市勝軍地蔵像の調査と『たたかう神仏の図像学』

富山市芝園2丁目町内会所蔵「木造愛宕地蔵像」と南砺市苗島神明社所蔵戸板・絵馬類の調査を実施した。その成果を『たたかう神仏の図像学』（吉川弘文館、2021年）、さらに「苗加次郎右衛門の怪力譚」（『砺波山村地域文化研究所紀要』39号、2022年）にまとめた。

[2] あわら市願慶寺の文化財調査

福井県あわら市吉崎願慶寺の文化財調査を全5回実施し、総点数約700点余の古文書・文化財類のすべての調査を終えた。中世吉崎御坊跡に立つ願慶寺には、嫁贅しの肉付き面や18世紀後半の日記類、絵図、懸幅縁起絵など、中世吉崎御坊の歴史を考えるための貴重な史料群がある。これらの史料目録を公表し、市の文化財指定を準備し、歴史資料館にて特別展等による公開をめざし、「嫁贅し肉付きの面」や日記類の考察を進めつつある。

[3] あわら市熊坂大仏と松龍寺千体仏

福井県あわら市熊坂地区所蔵熊坂大仏および松龍寺所蔵千体仏の撮影画像の整理と分析を進め、2022年3月にあわら市郷土歴史資料館にてふるさと講座「前谷松龍寺の千体仏」を行なった。この講座の内容をもとに、「熊坂大仏と松龍寺千体仏」（『日本歴史』897号）を公表した。さらに、800体の千体仏についてAIによる分類・系統分けの作業を進めつつある。

[4] 中近世加越能地域の水災の表象と記憶

15世紀の加賀大野荘散用状を考察した「長禄四年の「百日大雨」と「砂成」」を『北陸史学』70号（2022年）に発表。金沢大学・北國新聞社共同事業の市民公開講座「金沢学」で「犀川の雨と風」と題する報告を行なった（於北國新聞社、2023年）。2023年には、愛荘町歴史文化博物館特別展「水争いと縁起絵巻」にて「たたかう神仏の図像」と題する講演を行なった。2024年度東京歴史科学研究会58回大会委員会企画「環境から生存を問いなおす」では、「風雨の表象と水災の記憶 中近世越中の縄ヶ池と井波風」と題する報告を行なった（2024年5月）。

これらの成果は、[1]・[2]の成果を合わせて『水の表象、水災の記憶（仮）』（勉誠社、2025年）を出版予定である。

[5] 史料の翻刻・紹介

2017年から、明和6年（1769）の小松勝光寺周好の日記『烏兔記』の輪読会を開催。前科研から継続していた翻刻・紹介を小西洋子・木越隆三・室山孝・渡貫多聞・高遠らとの共著にて『金沢大学大学院人間社会環境研究』41

・42号に公表し、すべての翻刻を完了した。また吉田航志らを中心に小西洋子・高遠らと共著で「資料紹介 金沢市立玉川図書館所蔵『西尾隼人大坂陣大聖寺陣覚書』」(『人間社会環境研究』43号)を公表した。さらに、金沢市本龍寺所蔵の奈良絵本「さよひめ」の輪読会を継続中である。

[6] 金沢市真宗寺院調査への参画

金沢市埋蔵文化財センターの金沢本龍寺・本泉寺調査に参加し、『金沢の真宗関連史料調査報告書 本龍寺史料・本泉寺史料』を分担執筆した。また、同センターによる真宗関連史料調査に継続参画し、金沢市善性寺、同善福寺の調査を実施し、報告書が刊行予定である。さらに、森本南遺跡で発掘された木札が全国初の点定札であることを指摘した「点定札の発見」(『日本歴史』)を公表予定である。

[7] その他

国文学研究資料館・北京外国語大学日本語学院・北京日本学研究中心主催の講座にて「絵画史料の読み方」を報告し、「絵画史料的読解方法」(『日本学研究』33輯、社会科学文献出版社)に中国語版を公表した。井上泰至編『資料論がひらく軍記・合戦図の世界』のコメント執筆、堀新・井上泰至編『家康徹底解剖』(文学通信)に「「四戦」という徳川の口ア」を執筆した。「「四戦場図屏風」を読む」(岡野有里香と共著。堀新『戦国軍記・合戦図屏風の研究』2024年)が刊行された。『本郷』158号に「空に太陽と月と金星がいつぺんに見えたとき」、『中学校社会科のしおり』(帝国書院)に「大坂城図屏風というオマージュ」、「騎馬武者像の破格」(『深化する歴史学』大月書店)を執筆した。

群馬県中之条町六合地区赤岩の古文書・文化財調査の着手した。本調査は、本科研終了後となるが、これまでの調査の蓄積を生かしながら予備調査を進めることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 黒田智	4. 巻 897
2. 論文標題 熊坂大仏と松龍寺千体仏	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 76-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒田智	4. 巻 39
2. 論文標題 苗加次郎右衛門の怪力譚	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 砺波散村地域文化研究所研究紀要	6. 最初と最後の頁 16-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒田智	4. 巻 33
2. 論文標題 絵画史料的解決方法	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本学研究	6. 最初と最後の頁 23-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 YOSHIDA Kazushi、KURODA Satoshi、KONISHI Yoko、GAO Yuan	4. 巻 44
2. 論文標題 吉田, 航志	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 人間社会環境研究 = Human and socio-environmental studies	6. 最初と最後の頁 145(1) ~ 159(13)
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24517/00067120	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒田智	4. 巻 前期
2. 論文標題 大坂城図屏風というオマージュ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中学校 社会科のしおり	6. 最初と最後の頁 24-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒田智	4. 巻 70
2. 論文標題 長祿四年の「百日大雨」と「砂成」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 北陸史学	6. 最初と最後の頁 111-126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒田智	4. 巻 158
2. 論文標題 空に太陽と月と金星がいつべんに見えたとき	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 本郷	6. 最初と最後の頁 34-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒田智	4. 巻 未定
2. 論文標題 点定札の発見	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 黒田智
2. 発表標題 前谷松龍寺の千体仏
3. 学会等名 第3回あわらし郷土歴史資料館 ふるさと講座（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 黒田智
2. 発表標題 絵画史料の読み方 肖像画の髭と年齢
3. 学会等名 第9回日本古典籍セミナー 奈良絵本・絵巻・肖像画 図像学へのアプローチ
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 黒田智
2. 発表標題 たたかう神仏の図像 矢取地蔵縁起絵巻を例に
3. 学会等名 愛荘町歴史文化博物館特別展「水争いと縁起絵巻」（招待講演）（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 黒田智
2. 発表標題 風雨の表象と水災の記憶 中近世越中の縄ヶ池と井波風
3. 学会等名 東京歴史科学研究会大会委員会企画「環境から生存を問いなおす」
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 堀 新、井上 泰至	4. 発行年 2023年
2. 出版社 文学通信	5. 総ページ数 388
3. 書名 家康徹底解読	

1. 著者名 井上泰至編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 220
3. 書名 資料論がひらく軍記・合戦図の世界	

1. 著者名 黒田智	4. 発行年 2021年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 321
3. 書名 たたかう神仏の図像学	

1. 著者名 金沢市	4. 発行年 2022年
2. 出版社 金沢市	5. 総ページ数 232
3. 書名 金沢の真宗関連史料調査報告書1 本龍寺史料・本泉寺史料	

1. 著者名 歴史科学協議会	4. 発行年 2023年
2. 出版社 大月書店	5. 総ページ数 272
3. 書名 深化する歴史学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------